

総合戦略骨子案

1

総合戦略の位置づけ

国全体で取り組む地方創生は、中長期的な人口の推移など、次の世代やその次の世代の危機感を共有し、人口減少に歯止めをかけ、それぞれの地域に活力を取り戻していくための息の長い施策であり、地方創生の充実・強化に向け、切れ目ない取組みが求められています。

本市では平成 26 年(2014)に成立した「まち・ひと・しごと創生法」や同年に策定された国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、平成 28 年(2016)に「京田辺市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

その後、令和元年(2019)に国の「第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定されたことを受け、本市でも「第 2 期京田辺市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(以下、「市総合戦略」)を令和 2 年(2020)3 月に策定し、令和 2 年度から 5 年間の施策の方向を位置付け、地方創生に取り組んできました。

また、令和 5 年度(2023)には「デジタル田園都市国家構想総合戦略」(以下、「国総合戦略」)が策定、改定されましたが、市町村においても、国総合戦略を勘案するとともに、現行の「地方版総合戦略」を検証し、次期「地方版総合戦略」の策定を進めるよう要請がありました。

これらを踏まえ、現行の市総合戦略が令和 6 年度(2024)に最終年度を迎えることから、本市においても、国総合戦略や京都府総合計画を踏まえ、地方創生の充実・強化に向けた切れ目ない取組みを進めるため、本総合戦略を策定します。

2

第4次京田辺市総合計画『まちづくりプラン』等との関係

令和 6 年(2024)に策定した第4次京田辺市総合計画「中期まちづくりプラン」や令和 5 年(2023)に策定した京田辺市 DX 推進計画に掲げる施策の中から、とりわけ出生率低下の克服と地域経済の活性化について即効性が高いものや、デジタルを活用したまち・ひと・しごと創生に資するものを選定し、それらを政策パッケージとして組み合わせることで本戦略を策定し、地方創生の取組みを積極的、具体的かつ戦略的に推進します。

また、人口ビジョンでの本市の将来展望人口の実現に向け、4つの基本目標による諸施策をまとめています。

3

地域ビジョン・基本目標

第4次京田辺市総合計画においては、都市像である「緑豊かで健康な文化田園都市」を目指し、まちづくりを進めることとしています。本総合戦略においてもこの都市像を地域が目指すべき理想像(地域ビジョン)とし、地方創生を総合計画におけるまちづくりと一体的に推進します。

地域ビジョン

緑豊かで健康な文化田園都市

基本目標

- 1 こども・子育ての希望をかなえるまちづくり
- 2 稼げる産業と活躍の場があるまちづくり
- 3 京田辺へ新たな人の流れをつくるまちづくり
- 4 持続可能で誰もが住み続けたくなるまちづくり

4

計画期間

本総合戦略の計画期間は、令和7年度(2025)から令和11年度(2029)までの5年間とします。

年 度	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)
第4次総合計画												
総合戦略												

基本構想 (R2～R13)

前期まちづくりプラン (R2～R5)

中期まちづくりプラン (R6～R9)

後期まちづくりプラン (R10～R13)

第2期総合戦略 (R2～R6)

第3期総合戦略 (R7～R11)

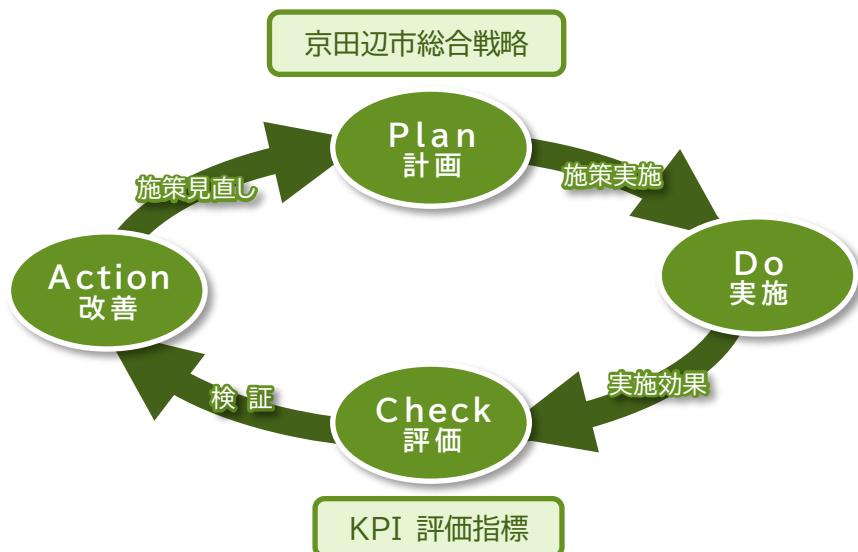
5

総合戦略の評価・検証の仕組み

本総合戦略においては、基本目標ごとに数値目標を示すとともに、基本目標の達成に向けた施策について、その効果を客観的に検証できる数値目標や重要業績評価指標（KPI）を設定し、PDCAサイクル（計画策定:Plan、実施:Do、評価:Check、改善:Actionのサイクル）に基づき、「京田辺市まち・ひと・しごと創生有識者会議」等により効果検証を実施します。また、これらを第4次総合計画「中期まちづくりプラン」に掲げる事業の目標値等と整合させることにより、効果検証の円滑化を図ります。

総合戦略の実現・推進に向けて、行政はもちろんのこと、市民をはじめ、各種団体や事業者など、京田辺に関わるすべての人々の参画・協働、パートナーシップにより、将来にわたって活力あるまちを目指し取組みを進めます。

* 重要業績評価指標（KPI）：Key Performance Indicator の略称



6

基本的方向と具体的施策

基本目標の達成に向けた、施策展開の基本的方向と具体的施策を次に示します。

基本目標 1 こども・子育ての希望をかなえるまちづくり

「こどもまんなか社会」の実現に向け、地域全体で子どもの健やかな成長を支える一体的で切れ目ないこども・子育て支援を推進します。また、多様な地域資源を活用し、待機児童を発生させない充実した保育環境を整備するとともに、学童保育などのサービスを充実させます。

さらに、発達段階や個人に応じた確かな学力の育成、児童生徒数などに応じた計画的な学校環境整備などにより、質の高い教育の実現と安全で安心な教育環境づくりに努めます。

数値目標	基準値	目標値
合計特殊出生率	1.40 (H29~R4)	1.60 (R11)

【具体的施策】

(1) 一体的で切れ目ないこども・子育て支援の推進

地域子育て支援センターの機能向上や、気軽に子育て支援施設を利用できる仕組みづくり、相談支援の充実、「こどもイベント」の開催などを通じ、地域全体で子育てを支える体制を構築し、結婚・妊娠・出産・育児に対する切れ目のない支援を推進します。

施策の主な内容
○こども計画に基づくこども・若者施策の一体的な推進 ○身近で相談に応じ、必要な支援につなぐ伴走型相談支援の充実 ○子育て支援拠点などの設置・再編による切れ目のない子育て支援体制の構築 ○地域や大学などと連携したこどもが主役になる「こどもイベント」の開催 ○子育て事業のオンライン予約 ○児童手当の手続きのオンライン化

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値
子育てに関する市民満足度	64.8% (R4)	増加させる (R8・R12)
地域子育て支援拠点施設利用者数	21,360 人 (R5)	22,000 人 (R11)

(2) こどもが過ごす環境の整備と充実

各種保育サービスを充実させるとともに、地域の拠点となる市立幼保連携型認定こども園や民間保育園などの整備により、こどもが健やかに育つ環境づくりに取り組みます。

学齢期においては、民間活力を活用し、留守家庭児童会のサービスを向上させるとともに、子どもの居場所づくり等を生涯学習の活動機会としても活用することで、放課後に児童が安心して過ごすことの出来る環境づくりを進めます。

施策の主な内容		
<ul style="list-style-type: none">○幼稚園・保育所再編整備計画に基づく就学前教育・保育施設の再編○保護者ニーズに対応した民間保育園等の整備促進、就学前教育・保育サービスの向上○民間活力をいかした留守家庭児童会のサービス向上○放課後子ども教室等による生涯学習と連動した子どもの居場所づくり○幼稚園・保育所・留守家庭児童会等の利用申込みのオンライン化○留守家庭児童会保育現場のDX化の促進		

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値
保育所等待機児童数	0人 (R6)	0人 (R11)
留守家庭児童会運営における民間活力の活用	0件 (R6)	増加させる (R11)

(3) 教育内容の充実と教育環境の向上

個々の学習状況を把握・活用し学力を高めるとともに、互いを尊重する態度や健康で安全な生活に必要な体力、危機対応能力を養います。また、多様性・異文化理解、情報教育を通じて持続可能な社会づくりへ対応できる人材を育成し、児童生徒数の偏在解消にも努めることで、ソフト・ハードの両面から教育力の向上と安全・安心な学習環境の整備を進めます。

施策の主な内容		
<ul style="list-style-type: none">○学力調査等を活用した対話的な学習の推進○地元産農産物を活用した安全・安心な学校給食の実施○社会の変化に対応する教育の推進○体育館等への空調設備整備○児童生徒数偏在解消による教育の質の向上○保護者とのオンライン連絡網システム運用		

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値
全国学力・学習状況調査における平均正答率の割合	-	府平均以上 (R11)
学校選択制度の利用者数(累積)	27人 (R6)	180人 (R11)

基本目標 2 稼げる産業と活躍の場があるまちづくり

農商工業における担い手の確保・育成や産学連携の推進等により稼げる地域づくりを進めます。また、市内への企業立地や産業の創出を促進するとともに、若者や女性、高齢者や障がいのある人など、だれもが充実したワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の下で活躍できるよう支援します。

数値目標	基準値	目標値
市内製造品出荷額等	2,152 億 3,481 万円 (R5)	2,400 億円 (R11)
粗付加価値額	950 億 7,760 万円 (R5)	1,100 億円 (R11)

【具体的施策】

(1) 農商工業の振興と各産業の連携

安定した農業の担い手を確保・育成し、農業経営の高度化と効率化を進めるとともに、商工業と連携した特産品の振興や食育による地産地消を推進します。また、農地の保全と多様な活用を図り、魅力的な農業と農村の創造、基盤整備を促進します。さらに、市内商工業の活性化のため、商工業の担い手の支援と育成、経営支援の強化に取り組みます。

施策の主な内容
○効率的な農業経営に向けた組織づくりや担い手育成支援 ○市内に立地する高校・大学と連携した市内従業者の確保 ○地元産品の高付加価値化に向けた取組みの支援 ○市内産業の活性化に向けた販路開拓支援環境整備 ○水田活用交付金のオンライン申請 ○農地地図情報システムの GIS 移行 ○統計データ等のオープンデータ公開など

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値
従業者数(民営)	24,457 人 (R3)	26,000 人 (R11)
連携事業による田辺高校卒業生の市内企業就職者数(通算)	-	25 人 (R11)

(2) 創業支援と新産業の誘致

産学連携により付加価値の高い新産業の創出を促進するとともに、道路網や鉄道網に支えられた高い交通利便性をいかし、企業用地の確保や新たな企業立地を促進し、市内での雇用創出と経済の活性化に取り組みます。

施策の主な内容
○大学・研究機関と連携した新産業創出・起業の環境整備・交流促進 ○フードテックを核とした学研都市南田辺西地区の整備推進 ○新名神高速道路全線開通のインパクトを見据えた企業立地の促進 ○統計データ等のオープンデータ公開<再掲> など

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値
新設事業所数	42.3 事業所/年 (H27~R3 平均)	220 事業所 (R7~R11 合計)
GDP 成長率	2.0% (H27→R1)	2.5% (R7→R11)

(3) 社会経済活動を支える人材の育成と就労・活躍の場の創出

市内に立地する学校との連携により、市内企業の人材確保を進めます。また、障がいのある人や高齢者がそれぞれの希望に応じて就労・活躍出来る場を創出するとともに、男女共同参画を推進し、ワーク・ライフ・バランスを高めることで、市内の経済活動や社会活動の活性化を目指します。

施策の主な内容
○田辺公園の拡張整備にあわせた障がいのある人の活躍を支える体制の構築 ○高齢者いきいきポイント事業の推進 ○市内に立地する高校・大学と連携した市内従業者の確保<再掲> ○ワーク・ライフ・バランスの向上及び女性活躍の促進 ○男性の家事・育児への参画促進 ○高齢者いきいきポイント事業の交付金申請のオンライン化 ○スマホ教室の開催 など

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値
障がい者就労支援事業での一般就労移行者数(累積)	-	50 人 (R11)
高齢者いきいきポイントボランティア登録者数	329 人 (R5)	390 人 (R11)

基本目標 3 京田辺へ新たな人の流れをつくるまちづくり

文化や芸術、特色あるスポーツ活動への支援によりまちの魅力づくりを進めるとともに、特産品や歴史、自然等の地域資源も併せて活用することで、観光需要を創出し、関係人口の増加と観光消費の拡大を図ります。また、事業者や市民の方等と共同で市の情報を効果的に発信し、様々な主体の関係性を強化するとともに、都市格を高め、親族や友人などに誇れるまちとすることで、人口の長期的な社会増へつなげます。

数値目標	基準値	目標値
観光入込客数	903千人 (R5)	910千人 (R11)
観光消費額	19.95億円 (R5)	20.3億円 (R11)

【具体的な施策】

(1) 文化・スポーツ活動の推進

市民が気軽に文化に触れられる機会を提供し、個性豊かな文化活動を支援します。また、文化資源の振興や活用を促進するとともに、質の高い鑑賞空間を備え、多様な文化活動を行える施設の整備を進めます。さらに、特色あるスポーツイベントの開催等によりまちの魅力づくりに取組みます。

施策の主な内容
○パブリック・アート(公共空間を活用した芸術活動)の促進 ○市民まつりの開催による交流の促進 ○文化活動の拠点となる複合型公共施設の整備 ○特色あるスポーツイベントやプロスポーツ選手の合宿などの開催による交流の促進 ○ワールドマスターズゲームス関西の開催 ○京田辺市展のバーチャル化 ○運動施設のオンライン予約など

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値
文化・スポーツに関する市民満足度	61.7% (R4)	増加させる (R8・R12)

(2) 地域資源の活用と産業間の連携による観光の推進

市指定無形民俗文化財等の伝統文化や天理山古墳群等の文化財の保存・継承に努めるとともに、市内の産業が連携したブランド力のある特産品の開発やアウトドア活動の支援等、地域資源を活用し、観光面での魅力を高めます。また、広域観光ネットワークの形成や参加・体験型観光の充実等の新たな観光資源づくりを進めます。

施策の主な内容
○市指定無形民俗文化財の継承支援
○天理山古墳群の保存及び史跡広場の整備推進
○地元産品の高付加価値化に向けた取組みの支援<再掲>
○市内産業の連携による特産品の開発
○民間活力による野外活動センターの整備・活用
○近隣市町との連携による広域観光の促進 など

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値
ふるさと納税の返礼品数	135 品 (R5)	200 品 (R11)
休日日中の滞在人口率※	0.93 倍 (R5.6)	1.00 倍 (R11)

※午後 2 時に市内に滞在していた人口(15~79 歳)を直近の国勢調査の人口(15~79 歳)で除した値

(3) 様々な主体や他地域との連携

市民と連携して市内外へ本市の魅力を発信することで、関係人口の創出を推進します。また、区・自治会やまちづくり協議会など、市民による主体的なまちづくりを支援し、地域コミュニティの活性化を促進することで、市民にとっての「居心地のよさ」、「本来感(自分らしさ)」、「自己発見性(やりたいことが見つかる)」の醸成を図ります。まちづくりの重要なパートナーである同志社や市内に立地する企業等、産官学の交流・連携や、関係自治体との広域連携を推進し、本市のブランド力を高めます。

施策の主な内容
○まちづくり協議会の設立・運営支援による地域課題の解決
○南部まちづくりセンター「ミライロ」の充実と機能の全市的な展開
○広報紙や SNS での市民と一体となった情報発信の推進
○協定締結大学などが有する特徴をいかした連携事業の展開
○広域行政・都市間交流などの推進
○企業版ふるさと納税等による官民連携の推進
○SNS での配信情報の細分化
○住民センター・まちづくりセンターのオンライン予約 など

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値
SNS のフォロワー数	14,812 人 (R5)	17,000 人 (R11)
行政・地域・学校と大学等(教職員・学生団体含む)との連携事業数	151 事業 (R5)	160 事業 (R11)

基本目標 4 持続可能で誰もが住み続けたくなるまちづくり

市民協働を通じて水や緑に親しむ環境づくりや日常生活での安全・安心の確保を進め、市民がまちへの誇りと愛着をもち、将来にわたって安全・安心に暮らし続けられるまちづくりを進めます。併せてまちの利便性を高め、住み心地が良く、誰もが住み続けたいと感じられる「ウェルビーイング」なまちを目指します。

数値目標	基準値	目標値
定住意向に関する市民満足度	88.4% (R4)	増加させる (R8・R12)
転入アンケートで「住んでいたことがある」と回答した人の割合	17.1% (R5)	20.0% (R11)
「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に肯定的に回答した児童生徒の割合	-	府平均以上 (R11)
住民の幸福度平均値※	6.6 (R6)	7.0 (R11)

※(一社)スマートシティ・インスティテュートの地域幸福度(Well-Being)指標による

【具体的施策】

(1) 都市環境の向上

市民・事業者・行政が協力し、緑の保全と再生を推進します。また、農福連携をテーマにした公園の活用や水・緑に親しむ環境づくりを進め、市民が自然と親しむ場を創出します。ゼロカーボンシティ実現に向けて、ごみの減量化や再資源化、エネルギー効率向上に取り組み、温室効果ガス削減を目指します。

施策の主な内容
○森林・里山・緑地の保全や緑化など緑に関する取組みの推進 ○誰もが交流できる拠点となる公園の整備 ○ゼロカーボンシティ実現に向けた取組みの推進、機運の醸成 ○環境負荷の少ない新たなごみ処理施設の整備 ○粗大ごみ・持込ごみの申込みのオンライン化 ○集団回収事業、ごみネット等の補助金申請のオンライン化など

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値
都市景観・生活環境に関する市民満足度	71.0% (R4)	増加させる (R8・R12)
市民一斉清掃の参加者数	22,074 人 (R5)	22,500 人 (R11)

(2) 地域ぐるみの支え合いと安全・安心の確保

誰もが安心して住み続けられる、市民と協働した全世代型の支え合いシステムを構築し、年齢や障がいの有無にかかわらず、健康に暮らし続けられるまちづくりを進めます。また、防災広場の整備や消防団組織の強化等により、市民、行政、関係機関が連携した危機管理体制の強化を図ります。さらに、住宅のライフサイクルに応じた支援により空家等への対策を推進し、住宅市場での流通を促進します。

施策の主な内容
<ul style="list-style-type: none">○市全体での重層的支援体制の構築・運用○田辺公園の拡張整備にあわせた障がいのある人の活躍を支える体制の構築<再掲>○高齢者の健康保持、社会参加の促進、生きがいづくりに向けた取組み支援○防災広場の整備、自主防災組織や消防団への加入促進等による地域防災力の強化○住宅のライフサイクルに応じた空家対策の実施○地域包括ケアにおける地域資源のデータベース化○高齢者いきいきポイント事業の交付金申請のオンライン化<再掲>○マイナンバーカードを活用した障害者割引等の利用推進○火災予防分野の手続きのオンライン化など

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値
消防団員数充足率	77.0% (R5)	93.9% (R11)
市内刑法犯総数	310 件 (R5)	減少させる (R11)

(3) まちの利便性向上と新たな市街地づくり

計画的な土地利用とコンパクトシティによるまちづくりを推進します。さらに、市の骨格となる幹線道路の整備を促進するとともに、市民や公共交通事業者等との議論を通じて、質の高い暮らしを支える公共交通ネットワークの形成を目指します。また、拠点駅周辺において、魅力的な都市環境を備えた利便性の高い市街地の整備、再生を進めるとともに、中心市街地でのにぎわい増加に向けた取組みを支援します。

施策の主な内容
<ul style="list-style-type: none">○大住草内線をはじめとした幹線道路の整備推進○まちづくりと連携した持続可能な公共交通ネットワークの形成○田辺北地区における新市街地の整備、ウォーカブルなまちづくりの推進○都市インフラの維持・整備・充実○駅前空間など、市街地でのにぎわいの創出○都市計画情報の GIS・オープンデータ提供など

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値
居住誘導区域内の人口密度	77.4 人/ha (R5)	維持する (R11)
飲食店の件数	154 件 (R3)	170 件 (R11)